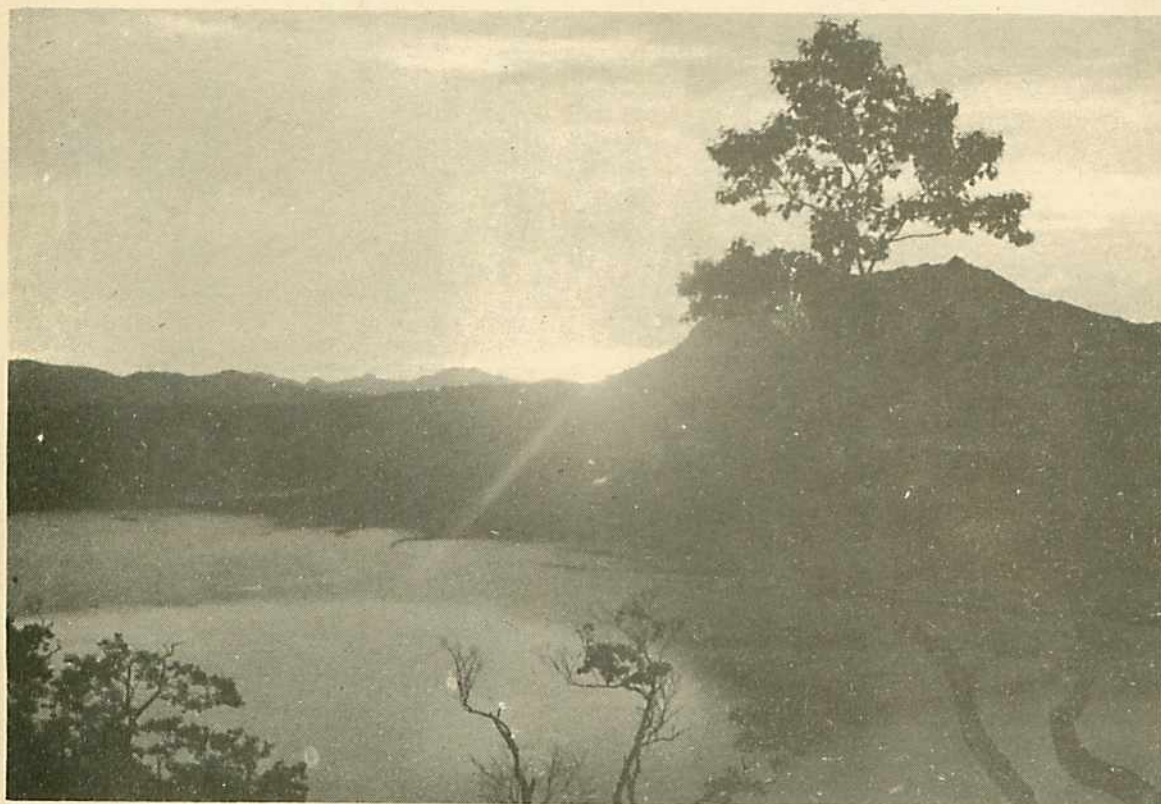


(1) 組合だより

# 組合だより

発行所 中標津農業協同組合・中標津町農業共済組合

発行 昭和51年1月1日 第25号 印刷・アート印刷株式会社 《新年号》



謹んで新春の  
お慶びを申し上げます

1976年 元旦

中標津農業協同組合・中標津町農業共済組合

戦後最も深く、最も長い不況の内に五十年を送り、希望も新たに新春を迎えられた事と、心よりお慶び申し上げます。

過ぎし一年を省りみます時、石油バニック以来の経済不況は深刻化し、昨年十一月現在で倒産は戦後最高一、三二七件で完全失業者は、一〇三万人、消費は前年比一〇・一％増で、低迷し、輸出に於いても、前年比一〇・九％減といわれ不況は続き、政府は十二月予算を現実的な第五次不況対策とし、これで、日本経済を不況から引き揚げ安定成長軌道に乗せるのだといっております。

景気の早期回復を期待したいものであります。

春先の大雨は、畑作・牧草といわず、被害を与え、一時は「冷害」の声も聞かれましたが、秋の天候回復により、一抹の不安を解消する事ができました。

しかし、馬鈴薯においては、全道の豊作と、経済不況が合いまって澱粉消費が悪く、価格も低迷の一路をたどり、今後はこの問題と取り組まなければと考えております。

## 年頭のごあいさつ



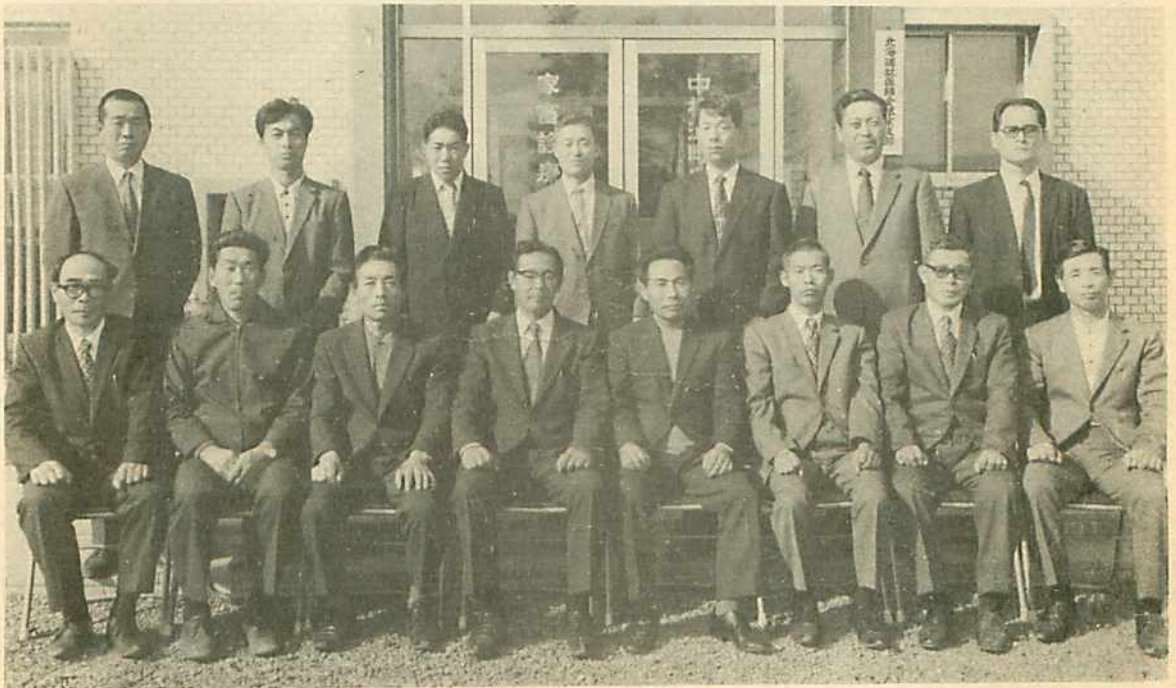
中標津農業協同組合  
組合長理事 児玉光彦

五十一年は、酪農近代化方針が農林省に於いて検討される年であり身辺に於いては乳質改善細菌規制が行なわれる年でもあります。酪農近代化においては、五十一年より六十年に至る将来十年間の酪農のあり方、考え方について示されますが、これらについては充分組合員の皆様と検討して参りたいと思っております。乳質につきましては、皆様の御努力により根室管内トップの成績となりお礼申し上げますと共に規制の年に迎って、一層の御協力をお願い致します。

今年、農協に於いては若い組合員の希望を取り入れ、乳牛改良の一步としてカナダより優秀乳牛・若牛を導入すべく進めております。又、畑作に於いては、原種耕作を行ない馬鈴薯種子確保に力を入れて参りたいと考えております。

農業協同組合が組合員一人／＼のものである事の自覚の上に立って改善して参りたいと思っておりますれば、組合員の皆様には御協力・御指導下され組合員と組合が一体となり、戦後最大といわれる不況を乗り越えようではありませんか。

最後に組合員各位と御家族の御健勝をお祈りし、五十一年がより良い年でありますよう心より祈念致し、年頭の御挨拶と致します。



岡田英明 西山一義 荒 昭一 松田 一 武田 勇 鈴木敏夫 駒井義一  
西井 武 須崎源蔵 中垣金久 水沼孝次郎 藤井弘美 小山美芳 百崎道夫 奥田勝佳

謹んで新年の御慶びを申し上げます。

過ぎました昭和五十年を顧みますとき、オイルショックに端を発した狂乱物価こそ一応は静まったとは申し乍ら、インフレと不況の同居した誠に暮しくいむずかしい一年でありました。皆様と共に新しく迎えました昭和五十一年こそ、本当に希望に満ちた躍動の年でありたいものと心より念願申し上げます。

組合の事業につきましては、組合員各位の絶大な御支援の力により激動の一年にもかかわらず、事業面でも加入頭数二万台の万台を突破し、一頭当り共済金も目標の十二万円を大きく上廻る実績を示し、順調に推移して参りました事は偏えに皆様の御協力の賜と厚く御礼申し上げます。

然し乍ら激変する現代の社会情勢の下、酪農経営の安定の為組合の事業は益々重要な役割を背負っております事を改めて痛感する次第でございます。



## 年頭のぐあいさつ

中標津町農業共済組合

組合長理事 水沼孝次郎

特に本年の課題としましては、

- (1)に共済制度改正による四十九頭までと抑えられておりました国庫負担率の頭数枠を引上げて多頭酪農に対応できる方向付けと物価上昇に見合う共済金の限度枠の引上げ問題である。
  - (2)には補償内容の充実と事故防止対策の強化による組合員各位の経済負担の軽減対策である。
  - (3)には人工授精事業の抜本的な合理化による収支の均衡と、受胎率の向上問題であります。
- これら諸問題を解決する為に役員一丸となり、衆知を結集して体当りして参る所存でございますので、組合員皆様のより深い御理解と倍旧の御協力を賜れば幸甚と存じます。
- 農業をとりまく情勢も大きく変わり、食糧の自給問題が大きくクローズアップされて参り、酪農も国家的見地から益々重要性を増して新農政に反映されて参りました折柄、皆様の益々の御精進と御清栄を心から祈念申し上げます。



千葉 弘 清水良雄 成田 武 清原 清 伊藤松義 三浦準治 浦村満夫 松隈健二  
三友盛行 宮脇正治 秋山政雄 鷺見孝 山本雪信 竹村喜代春 川上 優  
横田国雄 千葉清一 児玉光彦 石崎多門 青山喜代春

# 年頭にあたって



中標津農業協同組合 参事 成田 武

激しい経済の推移の中にも皆様ご健勝で新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。さて昨年の国内経済は物価から不況へと低成長に大中転換し、企業倒

産の続出・失業者は百万人と云われる近年にない低迷の一年でありました。後半に入って政府は物価を考慮し乍ら景気対策をとりつつありますが、冷えきった状態には効を奏せず予測では五十一年下期に至ってやや回復に向うであろうと云われています。而し世界的不況の中にあり、不安定な状態が当

分続くことは間違いないと思われ  
ます。  
管内農業も当然のこと乍らこの影響を受けておりますが、而し成長下に対処し経営内部の質の向上に目を向けられ鋭意努力されていることは誠に力強さを感じますし深く敬意を表する次第です。  
経営全般の再点検、そして土づくりは農業全般について云えること、又草づくり・牛づくりは酪農経営の原点、更に最終的な生活向上の為に先人が残された長所をふりかえり実行に移すときでもあろうと存じます。

農業後継者の花嫁対策が叫ばれていますが、昨年十二月に根室管内の農村に嫁いだ花嫁さんの交流会がありました。その意見として「根室農業には広い自然の大地の中で、牛に親しみ自己の力で経営を伸し生活を豊かなものにする希望がある」との誠にたのもしい力強さを深めた次第です。  
ヨーロッパ農業も同様に厳しい条件下にあるそうですが、経営の中から落着いた生活を築しむ豊かさがあると云われています。  
又最近の考え方として物やお金の経済面と共に心や健康に重点を



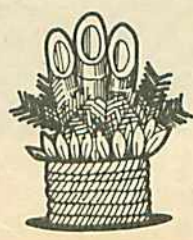
中標津町農業共済組合 参事 駒井 義一

明けましておめでとうございませう。組合員の皆様には、御健勝にて新年を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。さて、かえり見ますと、昨年は春以来低温多湿に依る天候不順が続き作柄が心配されま

したが、幸いその後の天候回復と農家各位の御努力に依り、おむね平年並みの飼料確保が出来得ましたことは御同慶にたえません。災害から農家経済を守ることを使令とする農業共済事業も、酪農専業地帯にある当共済組合は家畜共済事業のみの引受を行って参りましたが、従来共多年に涉り引受補償金額の低廉のため、事故発生時の補償が極めて低く、いろいろと御迷惑を煩わしましたが、幸い

一昨年より行いました補償充実措置の主旨について、各位の特段の御理解と御協力を賜り、短期引受等に依り個々のひずみも是正され、家畜共済の加入始期も統一され平等公平の方向に前進出来ました事は、誠に喜ばしい事と存じます。お蔭を持ちまして、加入頭数も二万二千二百頭に及び、二十七億三千万円の総補償金額を確保され組合員負担掛金については一億四拾万円の協力を戴くことが出来ました。

一方死亡雇用事故につきましては五〇年一月現在で既に六四〇頭の事故発生を見共済金支払額は六千一百万円となっており、病傷事故につきましては、事故発生件



数五〇年一月末現在一〇、四四七件支払共済金四千七百五拾万円となり、死亡事故・病傷事故共に増加しております事は酪農経営上警鐘する事と思ひますが、災害事故を補償する共済制度に運用につきましては組合員各位がよく補償充実措置を理解協力下され、発生事故に対する補填が充実されたことと信ずる次第であります。

家畜人工授精事業につきましては多頭数経営の中で受胎率の向上・乳牛質の改良を旨とし業務遂行についての協力を戴いて参りましたが受胎成績については順調に推移致し種牡牛選定についても可能な限り多頭の巾を広げて参りましたが逐年優良種牡牛(高額精

液)の利用度が増加していることは乳牛改良への理解の賜と嬉しいことですが、授液対象頭数の伸びについて期待する事は極めてむづかしく、前年に比し種付頭数については残念乍ら減少し、芳しくありません。

これら昨年の経過から、今年の事業は、更に厳しさを予測されます。農業諸事情に心を配り、農業共済制度のフル活用は、当然のことですが、一歩進んだ問題点の解明と、具体策を充分検討し、運営に反映させたいものです。

ここに新年に当り皆様の御健康と御活躍を念願いたしごあいさつといたします。

# 乳価運動はみんなの力の結集で

中標津農協酪農対策協議会

会長 竹下 日吉

昭和五十一年度の新春を迎え心からお慶びを申し上げる次第です。昨年の四月に前会長の跡を受けて全く新米の会長として今日迄努めさせて戴きましたが、不なれなため何かと不満も多かつた事と申します。幸い会員の大変な御協力に支えられ至らぬ私ではございませぬがどうか今日迄やって来られた事に対し深く感謝を申し上げる次第です。さて昨年を振り返って見ますと、三月の乳価運動が始まる前より物価抑制策が先行し最初から十五%以内というラインが敷かれた中での運動だった訳です。結果的には農業だけでなく他産業の労賃も含め此のラインを破る事が出来なかつたのが現実です。

各労働団体も昨年の反省の上に立ってこれからの要求運動の進め方について論議されているようである。福祉・雇用・年金等に重点を置いたものになりそうである。

つまり高度成長の中でもうけた分を要求していくという今迄の運動は通用しなくなっているからではない。さて酪農の問題はどうでしょう。酪農見直し論から始まって、食糧自給率の向上更に酪農近代化計画等結構な話ばかり飛び出しているが要は今迄のようなその場限りの人気取り農政でなく腰をすえてどこ迄やる気があるかという事でしょう。将来の展望をしっかりと見つけ、具体策が酪農家に喜んで受け入れられるものでなければならぬ。私達も酪農家不在にならぬようしっかりと監視の目を光らせませう。

五十一年度の乳価運動も間もなく本番に入ろうとしています。公共料金を始め値上りするものが多い中で今迄の乳価が目減りする事なく更に上乗せされるよう頑張らなくてはと思う。此のような運動はなんとしてもみんなの力の結集が何よりも大事な事という迄ありません。役員の方々又酪農家の皆さんの一層の御協力をお願いする次第です。私達の運動が後々迄そして多くの後継者の道しるべとならん事を願うものである。



# 新しい年を迎えて

管理部長 清水 良雄

明けましておめでとございませぬ。組合員の皆様にはご健勝で新春を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。

でも、これらの諸情勢を十分に認識し、ますます大型化される酪農業に打ちかつ寒地農業確立のため総合施設資金をはじめとする低利・長期資金の導入と融資条件の改善に努力してまいりました。このような情勢の中にあつて本組合の貯金が二十億の大口にのりましたことは、みなさんの日頃のご苦勞と絶大なるご協力の賜と深く敬意を表する次第であります。

さて今年の経済並びに農政面の動きはなお予断の許せない年になると考えなければなりません。この厳しい情勢下にあつて農協系統金融が組合員への最大奉仕という本年の目的に即して組合運営の健全発展を図る上にも諸方策と共に農協を中心とする系統全体が体制の強化とこれを推進するための自主的努力が伴つてこそ機能發揮しうるものと信じ、本年も農民の金融機関として親切で、明るい農協になるよう、決意を新たに真剣に取り組んでゆきたいと存じますので積極的なご協力をお願いする次第であります。みなさんの一層のご活躍とご健勝を祈念し新年のご挨拶と致します。



# 乳牛の『資質改良』に力を

営農部長 伊藤 松義

石油危機に端を発した狂乱物価の鎮静剤としての政府の総需要抑制並びに物価対策は我が国の経済の方向が高度成長から安定成長へと大きく変わり私達の生活も大量消費一使い捨てから堅実な暮らし一節約時代へと切り替えが必要となつてまいりました。

酪農をとりまく経済情勢を見るに酪農資材等の高騰による生産費の増加に対し農畜産物価格の低迷

等農家所得の伸び悩みの現象が生じ長期不況の要因も考えられます。この様な時こそ今一度「農業の見直し」を行う必要があると思ひます。農業を見直すといっても役所や企業の人に見直されたり見直して貰うものでもなく、農家個々はその経営主でありその内容は本人が良く知っている訳です。要は自分自身が見直し長期的営農設計を樹てることです。

次に輸入牛の導入であります。酪農経営は経営資本の面・労力の面からも大きな反省期に来ていると思ひます。個々の型態により異なりますが経営面積・労力の面から一應の到着点を設定、あとは乳牛の「資質改良」による個体乳量を増やす事も一つの方法と考えます。

酪農をとりまく経済情勢を見るに酪農資材等の高騰による生産費の増加に対し農畜産物価格の低迷

等農家所得の伸び悩みの現象が生じ長期不況の要因も考えられます。この様な時こそ今一度「農業の見直し」を行う必要があると思ひます。農業を見直すといっても役所や企業の人に見直されたり見直して貰うものでもなく、農家個々はその経営主でありその内容は本人が良く知っている訳です。要は自分自身が見直し長期的営農設計を樹てることです。

酪農経営は経営資本の面・労力の面からも大きな反省期に来ていると思ひます。個々の型態により異なりますが経営面積・労力の面から一應の到着点を設定、あとは乳牛の「資質改良」による個体乳量を増やす事も一つの方法と考えます。

# 年 頭 所 感

購 買 部 長

清 原 清

謹んで新春のお慶びを申し上げます。インフレと不況の風は、たび重なる政府の挺入（抑制策・浮揚策）にもかかわらず一向に其の成果はなく、何日薄日がさすのかお先き真暗な一年であった。



そして又新しく迎えた五十一年も日本経済にとつてインフレを押し景気を回復させる処方箋も特効薬もない難病のようである。このような経済下にあつて営農資材の情勢も又明るい材料は余り見当たらない。以下大まかに。先ず第一に肥料であるが平均七・四%位の値上げ、酪農種子は大抵据置であるがデントコーンについては二〇%位値上り必至。大農機具については輸入トラク

# 新 しい 年 を 迎 え て

組 合 員 相 談 室 長

三 浦 準 治

明けましておめでとうございませう。一年と言つても早いもので、あつという間に過ぎ去つたという感じがします。そして又新しい年



を迎えました。今年はこの年であつてほしいと思ふ事が沢山あります。私なりに勝手気ままに考えている事を書きます。正月だから多少の失礼は許して下さる事にして、例年の事ながら二月・三月は大雪に見まわれるが、今年はずかに春になってほしい。毎年大雪で二、三回は牛乳の始末に困るがそういう事のな

ターは大体二五〜一六%、作業機は一〇%前後の値上げ、国産トラクター及作業機については六月迄据置と決定。農薬も大体据置模様。その他資材についても鋼材等若干値上りが予想される物もあるが大体横バイ状態か。

次いで注目の配合飼料であるが一〜三月価格について全農は据置を決定しているが問題は安定基金の「補てん」にかかつており、補てん打ち切り（財源なく）ともなれば実質三、五〇〇円の値上げとなる。恐らくこの組合だよりが御手許に届く頃にはハッキリすると思うが今のところ安定基金待ちというところであり英断を期待したい。

いように、そして春から秋にかけて天候が良く、いも・ビートが沢山穫れ、牧草も良くのびて立派な乾草を沢山収穫出来、入植以来最高の年であつたといわれるようにそれに農産物など売れるものはほとんど上つて、買うものは反対に値上がりしないで、病気なし・怪我なし・健康で・もう少し欲張ると、世の中のわずらわしさに我、関せずと行きたいもの。こんな事何年も続く訳がない。せめて今年一年で結構。それにしても最近農業の事となると大変そうぞうしい。農業をやっている当事者に関係

次いで燃料であるが既に新聞或はテレビニュース等で御承知の通り元売却価格は十二月一日から値上げが通告され、小売店は年内殆んど値上げが終つたようである。しかし中標農協としては年内値上げせずの方針を決定。新春早々ではあるが次の通り価格を改定したいので御承解を。

記

油 種	組 合 員	員 外	現 金
ガソリン(燻)	二二円	二二五円	二二五円
ガソリン(燻)	二二五円	二二五円	二二五円
灯 油	二六円五銭	二六円五銭	
軽 油	五九円	五九円	
A 重油	五九円	五九円	

なく外野席の野次ようである。ワア／＼ ガヤ／＼ なにがなんだか良く分らない。総合農政って何んの事。いつている本人も良くわからないと見え、最近はずつかり下火模様。食糧危機・農業見直し論・食糧の自給率の向上・畜産公害など数え上げたまだまだ／＼ある。分つてるようで良く分らない。酪農近代化計画が又始まりそうである。どこまでやれというのか「いい加減、はつきりしろ」といいたくなる。馬耳東風と気楽に行か。分つているのは関連産業が

以上ガソリン三円、灯油一円五〇銭、軽油二円の値上げとなります。このようにオイルショック以来新年号にふさわしくない情報ばかりでペンを持つ手も自然に重く、一向に先へ進もうとはしない。ともあれ新しく迎える五十一年が皆さんにとつて低物価、高乳価が約束される年になる事を心から祈りたいものである。

五〇年度も残すところ三ヶ月、購売事業も組合員各位の系統全利用と地域住民の御愛顧に支えられ当初計画を大きく上廻る見通しであり、心からお礼を申し上げますと共に農協本来の使命を再認識し真剣に努力して参りたいと存じます。

太るだけその中に共倒れとなりかねない。欲張りもほど／＼に人の真似ばかりしたつて自分に能力がなければメツキがはげす。

能力以上の事を好んでしたがる人を世にいう「身の程知らず」という。余力を残していざという時ふんばりがきくよう心がけたいものである。私は短距離選手より、マラソン選手が好きである。



# 地道な努力で

## 経営の安定を

中標津農協青年部

部長 佐々木 政 行

あけましておめでとございませう。この数年の暗く長い農業の低迷の時代を脱して今年こそは、真に安定した明るい農業、農村生活が見出せるようお祈り申し上げます。

激動する世界経済の中で、手持ちの資源が少い我国では、その基盤の弱さをさらけ出し、国際分業なる名のもとに、農業に対する育成助成を、怠った結果食糧自給率において四〇%台という先進各国の中で最低レベルにまで落ちこんでしまいました。

一方、農家個々の経営に目をやると、專業化・大型化が急速に進行した結果によるひずみが大きく問題化されて来ています。

まず第一に土地の地力の問題・単一作物(牧草も含む)の連作により土壤中の養分のかたより、化

学肥料の多投などによる荒廃は、農業そのものの存続さえ危うくしています。

次に、資材の高騰の問題があります。飼・肥料を始め、機械・燃料等の異常な値上りは、專業化され大型化しきつた経営の体質の弱さを露呈しました。

これらの事を考える時、やはり適正な規模で経営を行い、地力の維持管理を念に行い堆肥の積極的な投入等を行い、地力の向上に努めると共に、経営内容も充実させ、より沢山生産する事よりも現状の経営の中で、より高い所得を生み出す努力の必要な時ではないかと思うのです。

また、一方各地の農民と結んで積極的に自らの立場を守る運動も続けなければいけません。今年には青年部としてもその活動において地道な努力の要求される年のように

すが、私はこのスタートに当り経営の安定元年とすべく、部員共々ががんばって行きたいと思っております。



# 組織の中で学習活動を

婦人部長 安達 いその



新年おめでとございませう。本年もよろしくお願ひ申し上げます。昨年のは長雨と低温のために農作物の成育が悪く一番牧草の収穫は減収で酪農経営の私達は心配しましたが、その後天候が回復して二番牧草で

は心配しましたが、その後天候が回復して二番牧草で

は心配しましたが、その後天候が回復して二番牧草で

は心配しましたが、その後天候が回復して二番牧草で

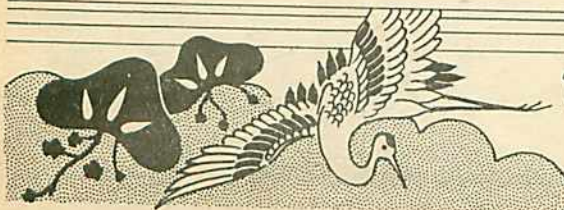
は心配しましたが、その後天候が回復して二番牧草で

は心配しましたが、その後天候が回復して二番牧草で

は心配しましたが、その後天候が回復して二番牧草で

当によかったと思いました。今年も生産団体による乳価運動がなされますが、乳価が少し上っても配合飼料や生産資材・その他物価が高騰して乳価を追い越す事のない様に願ひたいものです。農業をとりまく情勢は厳しいが厳しさの中に明るさを求めて私達は組織の中で学習活動を進めて参らなければならぬと思います。

# 正賀



農協 青年部  
婦人部だより

# 第二十四回全道農協 青年部大会に参加して

佐々木 昭雄

十二月二・三日、札幌市定山溪ホテルで盟友六〇〇名の参加で全道農協青年部大会が行なわれた。我が農協から佐々木部長を初め六名が参加しました。

第一日目は分科会の酪農・畜産対策に出席し、五十年産生産乳価運動の反省と今後の農政について安定した自立経営を確立するには(土作り・牛作り)という二つのテーマについて話し合いが始まった。



盟友600名参加の大会



第一分科会 組織対策

乳価については、一物一価の考え方から、大半の酪農家はプールの乳価が希望であるが、アウトサイダーの解消には多くの問題が残されており、地域の実情を考慮して、比較的速やかに実現を希望する。乳価運動のあり方については、従来の運動の方法を反省するとともに、この厳しい酪農家の現状を充分理解したうえで、一層有効な乳価運動を転回していかなければならないのではないか……。

粗飼料の質的、量的確保のためにも、永年草地の更新は必須の条件である。そのための費用・デントコーンハーベスター等機械購入には、多額の投資が必要であり、このために現行制度の有効利用とともに国・道の助成が強く望まれると思う。さいわい当農協は畑作と酪農の二本立の組合であるから永年草地の更新方法については、今後農協関係機関に強く要望したい。

乳牛の資質改良のため新乳検制度を進めることは、経営の合理化のためにも是非必要であり、後代検定の役割にかんがみ、国・道の助成が必要である。又、乳質規制の問題については、単にペナルティーをかけるという方法でなく、酪農家の和を考慮して効果的方法を講ずるべきである。

# 第二十三回全道農協 婦人部大会終了報告

第二十三回全道農協婦人部大会が十一月十三・十四日の二日間、北見管内温根湯温泉で開かれた。

第一日目は六分科会に分かれ意見交換が行われた。第一分科会は組織、第二・第三分科会は農業、農政、第四分科会は消費・第五分科会は健康、第六分科会は若妻。分科会終了後、温根湯温泉スボ

ーツセンターで家の光大会を行い第一日目の日程が終わった。二日目は古谷綱武氏の「これからの婦人の生き方」というテーマで国際婦人年記念講演があり、その後、本大会にはいり、きのうの分科会の集約意見をそれぞれ報告承認した。

# 第十五回根室地区 農協婦人部大会 並びに家の光大会終了

第十五回根室地区農協婦人部大会が十二月五・六日の二日間、養老牛温泉で開かれた。参加者は一五〇余名で、それ／＼活発な意見が出され、討議が行われた。

家の光大会は分科会が終わった後に行われた。各単組から出しものが一つあるいは二つぐらひ出され、歌・踊りなどがぎやかに行われた。

第一日目は各分科会に分かれ、意見交換が行われた。第一分科会は組織、第二分科会は農業・農政、第三分科会は営農、第四分科会は生活という四つの分科会に分かれ各単組から出されたテーマに基づき話しが進められていった。

中標津からは俣落の藤原トクさん、山下富子さんによる踊り、豊岡の松隈俊美さんの歌、二つを出してもらいました。このアトラクションの時だけならなにもかも忘れ、楽しく笑いながら過ごしました。



翌日の本大会は分科会の報告に  
基づき全員で討議をし、婦人自か  
らの能力を開発・発展させ、豊か  
な農業・住みよい郷土をめざすた  
め、管内農協婦人部一丸となって  
協同活動に取り組みことを申し合  
わせて、終了致しました。

婦人部大会での家の光大会



★アトラクション  
(歌) 松隈さん



★アトラクション  
(踊り) 藤原さん・山下さん



## 組合員のための 農協論

### 大切な組合員組織

バラバラでは  
農協運動は組  
合員が互いに力  
を合わせて押し  
進めていくもの  
である。だから  
農協運動には、

組合員の集まり、つまり組合員組  
織が欠かせない。

農協全体が実は組合員組織であ  
る。だが大人数の農協になると、  
いきなり全員が一本にまとまって  
活動するのは無理だから、気持ち  
が通い合い、一緒に活動できる範  
囲の少人数のグループを作り、こ  
れがつながり合って全体にまとま  
るといふ形が必要になってくる。

組合員と組合の中間に位置する  
組合員組織である。今の総合農協  
の組合員数だと、組合員と組合の  
結びつきの核として、どうしても  
これが欠かれない。最近の農協で  
は、組合員のまとまりが悪いところ  
から、職員が組合員宅を戸別訪  
問するとか、組合だよりやチラシ  
を配るとか、有線放送で呼びかけ  
るとか、要するにバラバラの組合  
員にバラバラに働きかけて意志疎  
通を図ろうとする事に力が注がれ  
ている。しかしこんな事は会社の

セールスでもやられている事で、  
農協としては邪道である。組合員  
と組合の結びつきの強化は、中間  
の組合員組織が活発に活動する中  
でのみ実現するのだという事にし  
っかり目を向けなければならぬ。

組合員教育の場 組合員が互いに  
勉強し合う組合員教育の場は、少  
人数の組合員組織である。

使ってはいけない言葉 農協界で  
は、地区や青壮年部・婦人部その  
他の組合員組織を「下部組織」と  
か「協力組織」とか呼びならわし  
てきている。だが考えてみれば、

組合員組織は大きく二つに分け  
られる。一つは、農協の事業経営  
活動に直接関係する組合員組織で  
ある。ただ集って組合(役員)

これはおかしな言葉である。組合  
(役員)の「下部」にあつて、  
その指示のもとに経営第一主義の  
組合の活動に「努力」する組織。

から説明を聞き物申すというだけ  
でなく、事業経営活動の一端を担  
って活動する組合員組織。ここで  
事業経営について互いに勉強し合  
い、農協らしい事業経営活動を作  
り出し、進めていく。もう一つは

別々に意地悪い見方ではなく、これ  
が実態ではないだろうか。組合員  
が農協運動の主人公だというあた  
り前の観点からいって、これは全  
く逆立ちしている。逆立ちした実  
態の中で、何の疑いもさしはさむ  
事なく「下部組織」「協力組織」と  
いう言葉が公然と使われていると  
いう事に他なるまい。

文化活動の組合員組織である。  
事業経営とは直接関係なしに、組  
合員の心の通い合いを、厳しい時  
代の背景の中の文化活動を通し  
て追求していく組織。文化と教育  
が密接な関係にある事からいって  
これは組合員教育のうえできりわ  
け重要なものといつていい。

野良仕事が一服し、組合も暑い  
さ中でまず小休止のこの八月、胸  
に手を置いて振り返ってみたいも  
のである。無意識の内に「下部組  
織」「協同組織」という言葉を使  
ていなかったかどうか。厳しく反省

して、こんな言葉は農協界から追  
放したいものである。  
◎ 日本名言集 東郷益子  
嫁して人の妻となるは難し。  
然れども、嫁の母たるは更に難  
し。

# 地方の減退を

## 防ごう

根釧農試 馬鈴しよ科長  
浅間和夫

### 有機物の効果

道内のばれいしよ主産地では、ばれいしよの作付け率が高く、輪作が無視されている。このため、ウイルス病・シストセンチュウ・黒あざ病などの土壤病害が増え、土地の生産力が低下してきている。本町でも、輪作の相手となる作物が無い場合、同様の状態下にあり長い目でみた場合この改善が必要と考えられる。

有機物を投与しないで、金肥に頼っていると、土壤中の微生物構成が悪くなってくる。つまり、土中には、細菌・放線菌・カビなどが生きているが、細菌数とくにグラム陰性菌の割合が多かったものから、しだいにカビの菌数が多い状態に変わってしまう。

たとえば、生産力の高い土壤では硝化菌の活性が高いが、これは

亜硝酸菌・硝酸菌という細菌による。この菌によってアンモニアから硝酸へとスムーズに変わり、ばれいしよが利用しやすくなる。

十勝農試で小豆を使った低温処理試験によると、自然栽培に比較し、低温処理の無たい肥区は51%に減収している。しかし、たい肥を施用した低温処理区では80%にとどまっていた。このように有機物を施用すると、養分の供給力が増えるだけでなく、病害虫や冷湿害に対する抵抗力も強まって反収が増加し、万一バランスのとれてない金肥を施用しても減収率が低くなることも知られている。

### 地力維持対策

まず、他管内でもつくりの上手な農家の例を拾ってみると、網走市字浦士別の酒部さんは、麦畑や早掘りばれいしよ跡地にエンバ

表一、各種材料の炭素率

材 料 名	炭 素	窒 素	炭素率
えん 麦 草	〇・四三	〇・四九	八八
秋 小 麦 草	〇・四二	〇・五八	七二
とうもろこし	〇・四二	〇・九五	四四
てん 菜 茎 葉	〇・三六	一・七三	二一
赤 ク ロ パ ー	〇・四五	四・二四	一一
た い 肥	〇・二七	一・八八	一四

クや麦選別時の二番を全面散ばんして秋にすき込む外、てん菜茎葉をもすき込み、一部の畑にはたい肥も入れている。清里町沢田さんの例では、斜里三町のし尿汚泥をもらって散布する外、秋まき小麦のから全部をすき込んでいる。また、喜茂別町の成田さんは、かつてはクマザサを馬の敷わらにして腐熟させたものを散布していたが最近では肉豚を飼養し、それから出るたい肥をばれいしよの前作にあたる畑に施用している。さらに、忠類村の紺野さんは、酪農家と提携して、てん菜・ばれいしよ・豆類を栽培し、次に牧草地に造成し酪農家の更新牧草を交換栽培する共同輪作方式をとって、地力の増進をはかっている。

牧草を七年ぐらい栽培した跡地に、てん菜・ルタバカ・とうもろこ

酪農家よりたい肥を譲ってもらうことができれば最高であり、自分の畑にてん菜を栽培した場合は必ず茎葉のすき込みをするようにする。なお、てん菜の茎葉やクローバでは分解を促進するために窒素分を加える必要がないが、炭素率（有機物中の炭素Cの量を窒素Nの量で割ったもの）が三〇パーセントより高い場合は、有機物材料一〇〇キロにつき一キロほどの窒素を添加するとよい。



(1) 組合 だ よ り

過失割合認定基準 (%) 〇一人 □一車

1. 歩行者の横断事故

(1) 信号機のある場所

歩車別	信号機	過失割合
〇	赤青	90
〇	赤	10
□	赤黄	70
□	黄	30
□	黄赤	20
□	赤	80

(2) 信号機の無い場所

〇	左右不確認	10
〇		90
□	左右確認	0
□		100

2. 横断歩行者以外の歩行と車両との接触事故

(1) 歩車道の区別のない道路

〇	側端	10
〇		90
□	側端以外	55
□		45

3. 交差点における直進車同士の衝突

(1) 信号機のある場所

□	甲 赤	100
□	乙 青	0
□	甲 赤	80
□	乙 黄	20

(2) 信号機のない場所(見通しのきかない場所)

□	甲 同幅員	70
□	乙 左方車	30
□	甲 異幅員	100
□	乙 優先道路	0
□	甲 異幅員	90
□	乙 広路	10
□	甲 一時停止義務違反	70
□	乙 徐行不履行	30

5. 交差点における直進2輪車と左折車の衝突事故

〇	右 併進中	0
□		100

(1) 交差点から30m手前の地点までの追越した場合

〇	前方注視	30
□	左 分進徐行安全確認済	70
〇	前方不注視	50
□	左 分進徐行安全確認済	50
〇	前方注視	10
□	左 注意義務のいずれか怠った	90
〇	前方不注視	30
□	左 注意義務のいずれか怠った	70

(2) 交差点から30m手前の地点に達するまでに追越した場合

〇	前方注視	90
□	左 分進徐行安全確認済	10
〇	前方注視	40
□	左 注意義務のいずれか怠った	60
〇	前方不注視	60
□	左 注意義務のいずれか怠った	40

(3) 横断歩道外

歩車別		過失割合
〇	横断禁止場所	70
〇		30
□	横断歩道	60
□	歩道橋附近(20m-30m)	40
□	歩道橋が無い場所	20
□	横断歩道	80
□	交差点又はその直進(5m-10m)	10
□		90

(2) 歩車道の区別がある道路

〇	車道上	60
〇	同方向	40
□	車道上	65
□	対面方向	35
□	路側帯上	5
□		95

(3) 信号機のない場所(見通しのきく場所)

優先車、一修正 - 10

4. 交差点における直進車と右折車の衝突事故

(1) 信号機のある交差点

□	直 青	40
□	右 #	60

異幅員 同幅員の交差点の場合準用  
見通しのきく交差点  
交差する道路から入る  
優先車 修正 - 10

(2) 信号機のない交差点(見通し悪い)

歩行者	信号機	過失割合
□	直 同幅員	40
□	右 交差する道路から入る	60
□	直 同幅員	40
□	右 対向から入る	60

6. 好意同乗者の損害額 減額基本割合

同乗経緯	被害者強要	無断同乗	運転者保有者の同意あり		
			頼まれて	誘合って	誘って
同乗者のためのみ	強迫されたケース 100%	事故を越して始めて同乗していたことを知ったケース 100%	家族の見舞引越等に行くのに頼まれたケース 60%		
			共通の仕事でよく頼まれたケース 50%	共通の仕事でよく同乗させていたケース 40%	共通の仕事で誘ったケース 30%
共同目的			ドライブ等に行こうと誘われたケース 40%	ドライブに行こうと誘ったケース 30%	ドライブに行こうと誘ったケース 20%
			断られるのに無理やり同乗したケース 80%	途中で同乗しているのを知ったがそのまま同乗させたケース 30%	帰宅する際誘ったケース 20%

自動車共済の過失割合の認定基準について

交通事故の中で、双方に過失がある場合問題となるのは、過失相殺です。  
そこで、今回、人対車、車対車の事故の過失割合認定基準を申し上げます。  
（注）客観的主観の事情により修正される場合もありますので申しさえます。  
皆さまので、知っておいていただきたいと思います。

種別	組合員名			種別	組合員名			種別	組合員名			種別	組合員名			
	上旬	中旬	下旬		上旬	中旬	下旬		上旬	中旬	下旬		上旬	中旬	下旬	
	コ	白田 穰	1 0 1	バ	板橋 松寿	1 0 0	第二俣落地区						コ			
	コ	新谷 正二	2 0 1	バ	岩井 昇	0 0 0	コ	西村 徳守	2 1 2	コ	内山 勲	1 1 0				
	コ	井口 精一	0 0 0	バ	服部 一好	0 0 0	コ	西垣 洋	2 1 2	コ	八木原 明治郎	1 1 2				
	コ	川上 茂	0 0 1	バ	遠藤 太一	0 0 0	コ	保科 清	2 2 1	コ	中浦 健夫	0 0 0				
	コ	石橋 喜作	0 0 1	バ	遠藤 幸吉	0 0 0	バ	松岡 喜代之助	0 0 0	バ	前原 秀隆	1 0 1				
	コ	長谷川 寿	2 2 2	コ	橋本 敏朗	2 1 2	コ	田代 昭	2 1 1	コ	町田 芳照	1 1 0				
	コ	花尻 武夫	2 1 1	コ	高橋 正三	0 1 2	コ	井ノ口 定則	2 2 1	コ	房川 喜清	0 0 0				
	コ	中条 由治	1 0 0	コ	松村 晴由	0 1 1	コ	安江 八五郎	2 1 1	コ	宮脇 正治	1 1 1				
	コ	中条 幸作	2 1 1	コ	小山 美芳	1 1 1	コ	剣持 広昭	0 0 0	コ	滝本 信孝	1 2 1				
	コ	奥村 保章	2 2 2	コ	小本 正春	0 0 0	コ	斎藤 別	0 0 0	バ	富沢 保男	1 1 0				
	コ	萱岡 信二	0 0 0	バ	菅原 清	0 0 0	コ	白石 孝治	2 2 2	バ	谷村 茂夫	0 0 0				
	コ	高橋 昌信	2 1 1	バ	上村 太平	0 0 0	バ	山口 広幸	1 0 0	バ	武田 三郎	0 0 0				
	コ	中塚 秀夫	1 2 2	バ	上村 政則	0 0 0	バ	原田 逸喜	1 1 1	バ	藤井 弘美	0 0 0				
	コ	黒田 定利	2 1 2	コ	上村 力	1 3 1	バ	沖 一美	0 0 0	バ	北村 一仁	1 0 0				
	コ	藤原 勝一	1 0 0	バ	松本 勇	0 0 0	バ	片岡 宅次	0 1 0	バ	杉本 匡視	0 0 0				
				バ	藤原 信男	0 0 0	バ	弾正 原正春	0 0 1	バ	佐藤 載康	1 2 1				
	コ	秋山 実太	1 1 0	バ	遠藤 忠義	1 1 1	バ	国光 昭	1 0 0	バ	松本 金市	0 0 0				
	コ	佐藤 春行	1 0 1	バ	山下 鉄男	0 0 0	バ	遠藤 直行	0 0 0	バ	飯野 一郎	1 0 0				
	コ	佐藤 一二	2 1 1	バ	阿部 幸一	0 0 0	バ	佐伯 柁次	0 0 1	コ						
	コ	清原 由太郎	1 1 1	バ	上ヶ島 春雄	0 0 0	バ	来栖 寛	0 0 0	バ	横田 国雄	1 1 1				
	コ	湯山 稔	0 0 1	コ	山崎 翠	0 0 0	バ	川村 清身	0 0 1	バ	竹下 日吉	1 0 1				
	コ	湯山 幸男	1 1 1	バ	藤田 貞蔵	0 0 0	バ	加藤 繁	0 0 0	バ	柳田 治郎	0 1 0				
	コ	三宅 要	1 0 1	バ	藤田 誠一	1 1 1	コ	萩原 蝶七	2 1 1	バ	青木 喜三	1 1 1				
	コ	門馬 四郎	2 2 1				コ	星野 昇司	1 0 0	バ	青木 重次	0 1 0				
	コ	中塚 文夫	2 1 0	バ	剣持 幸男	0 0 0	コ	星野 盛恵	2 2 1	コ	関又左工門	2 0 0				
	コ	石原 竜雄	1 1 1	バ	遠藤 与畏二	0 1 1	コ	滝本 勇雄	0 0 0	バ	横田 好一	1 1 0				
	コ	西井 武一	1 1 1	バ	宮田 正晴	1 1 1	バ	滝ヶ平 初美	0 0 0							
	コ	土井上 友一	1 1 1	バ	鷲見 孝男	0 0 1	バ	滝ヶ平 茂	1 1 1							
	コ	土井上 政雄	1 1 1	バ	真部 愈	0 0 0	バ	滝ヶ平 妓夫	1 0 1							
	コ	小沼 佐太	0 0 1	コ	渡辺 利秋	2 1 2	旬別個乳検査成績 (ランク別戸数)									
	コ	熊谷 正	1 2 2	コ	田代 良司	0 0 0	ランク別	0	1	2	3	4	5	合計		
	コ	山本 雪信	1 1 1	コ			上旬	156	126	46	2	0	0	330		
	コ	真野 米光	1 1 1	バ	相沢 武雄	1 1 1	中旬	171	131	25	3	0	0	330		
	コ	寺島 今朝松	1 1 1	バ	太田 俊昌	0 0 0	下旬	167	124	39	0	0	0	330		
	コ	佐藤 憲治	2 2 2	コ			合計	494	381	110	5	0	0	990		
	コ	佐藤 忠男	0 0 0	バ			合格率	49.9	38.5	11.1	0.5	0	0	100		
	コ	佐藤 和夫	1 0 0	バ	古瀬 敏弘	1 2 1	地区別個乳合格率									
	コ	塩田 専治	1 0 1	バ	小谷 盛一	0 0 0	地区	当	中	俣	開	武	第二	俣	平	
	コ	五十嵐 徳次	1 0 0	バ	秋山 政雄	0 0 0	旬	幌	標	橋	陽	佐	俣	落	均	
	コ	川上 優		バ	齊藤 富吉	0 1 1	上旬	100	98.2	100	100	100	100	97.9	99.4	
	コ	田中 清司	1 1 2	バ	広瀬 定夫	0 0 0	中旬	100	100	100	100	100	100	93.7	99.1	
	コ	山本 秀夫	2 1 0	コ	半沢 勇雄	0 0 1	下旬	100	100	100	100	100	100	100	100	
	コ	松田 征二	1 1 1	コ			月平均	100	99.4	100	100	100	100	97.2	99.5	
	コ	安達 武蔵	2 1 1	コ	笠原 良夫	1 1 1										
	コ	志賀 安尾	2 1 1	コ	武田 伊三郎	0 1 2										
	コ	志賀 正治	1 1 1	コ	後木 章	1 3 1										
	コ	篠永 鉄雄	1 0 0	コ	久保 花次郎	3 3 1										
	コ	篠永 静男	1 1 1	コ	松本 豊治	0 0 1										
	コ			バ	新井 真	1 1 1										
		俣落地区			コ	片野 博	0 1 0									
	コ	原 藤子	0 1 1													
	コ	大木 敏夫	0 0 0													
	コ	小林 金司	0 2 2	コ	小林 義忠	1 0 1										

## 12月 乳質検査成績表

中標津農業協同組合

種別	組合員名			種別	組合員名			種別	組合員名			種別	組合員名						
	上旬	中旬	下旬		上旬	中旬	下旬		上旬	中旬	下旬		上旬	中旬	下旬				
当幌地区				バ	高藤祐藏	1	1	1	バ	丸田良夫	0	1	0	バ	金子安有	0	0	0	
バ	飯島光五郎	0	0	0	バ	連田弘	1	1	1	バ				バ	高野国雄	0	1	0	
バ	飯島清一	0	0	0	バ	永谷雄幸	0	0	1	バ	鈴木重藏	0	0	0	バ	中林勇	0	0	0
バ	奥田勝佳	1	0	0	バ	長繩弘	1	1	0	コ	高橋一男	2	2	2	バ	工藤隆弘	0	0	1
バ	奥田岩男	0	1	0	コ	麻郷地忠	2	0	2	バ	高平幸夫	0	1	0	コ				
バ	中山安寿	0	1	0	バ	麻郷地忠勝	1	1	0	コ	中本要次郎	1	1	1	コ	赤波江雪右門	1	0	1
バ	山川健三	0	0	0	バ	小針晴信	0	1	0	コ	半沢かね	1	1	1	バ	沢口正志	1	0	0
バ	阿部俊勝	0	0	0	コ	佐藤吉次	2	1	1	コ	国見正雪	1	2	2					
バ	鈴木吉三	0	0	0	バ	花川秀一	0	0	0	コ	国見実	1	1	2					
バ	西垣信男	1	0	1	バ	古沢亀治	0	0	0	コ	斎藤哲雄	1	0	1	コ	目黒茂	0	1	2
バ	小原治	0	1	0	コ	花川稔	1	1	1	コ	斎藤栄七	2	1	2	バ	大西秀良	1	1	1
バ	吉田繁行	0	1	1	バ	今井秀和	0	0	0	コ	伊藤七郎	1	1	1	バ	大西英明	0	0	0
バ	竹村満夫	0	0	0	バ	東原正広	0	0	0	バ	千葉清一	1	1	1	バ	福島昭憲	1	1	0
バ	高橋常次	0	0	0	バ	岡部実	1	1	1	バ	村井直行	1	0	0	コ	下川原秀子	1	0	0
バ	筒井留雪	0	1	0	バ	渡辺善行	1	0	0	バ	山崎正喜	0	0	0	コ	三輪貞夫	1	1	2
バ	筒井正守	0	0	0	コ	田島育三	0	0	1	バ	松本嘉吉	0	1	0	バ	西山一義	0	0	0
バ	室井太吉	0	0	0	コ	竹村昇	1	0	2	バ	後藤田信夫	1	1	1	バ	佐々木武雄	2	1	0
バ	安田康正	0	0	0	バ	松隈健二	0	0	0	バ	斎須安雄	0	1	1	バ	日下一芳	0	0	0
バ	山田一男	0	1	0	コ					コ	今井靖清	1	0	2					
バ	松田昌介	0	0	0	バ	古瀬イセ	0	0	0	コ	山田良太郎	2	1	2	コ	石田春夫	2	0	2
バ	舟田正明	0	0	0	バ	藤本久雄	1	2	2	コ	房川喜延	2	1	2	バ	加茂正毅	1	1	0
バ	菊地良	1	1	1	バ	小川清	0	0	1	コ	三輪一郎	2	2	2	バ	佐々木政行	0	1	1
バ	遠田要三	0	0	0	バ	佐藤道嘉	0	0	0	コ	井上亮夫	2	1	2	コ	三友盛行	1	1	0
バ	西山高蔵	1	2	2	バ	佐藤末美	0	1	0	コ	笠井剛	2	0	1	バ	高島貞作	0	0	0
バ	長正路正義	0	0	0	バ	佐藤拓	2	1	1	バ	赤堀岩男	0	0	0	バ	福島信一	0	0	0
バ	大野正己	0	1	0	バ	佐藤永雄	0	0	0	バ	鈴木敏夫	1	1	1	バ	古田起雄	2	0	2
バ	吉成左門	1	1	1	バ	佐藤東	0	0	0	俵橋地区				バ	本村萌	0	0	0	
バ	福村守	1	2	0	バ	望月幸男	0	1	1	コ	大山仁三郎	1	0	0	バ	中多敏夫	1	0	1
バ	遠藤末吉	1	0	1	コ	白築政博	1	0	1	バ	名越成夫	1	0	0	バ	真野勇	0	1	0
バ	笠原金吾	0	0	0	バ	武田勇	0	1	1	コ				コ	多田俊夫	1	0	0	
中標津地区				バ	高橋敏夫	1	1	1	コ	佐藤清	2	2	1	バ	小岩正一	0	0	0	
コ	伊藤政義	1	0	1	バ	熊倉彦吉	0	0	0	コ	大山道夫	2	2	2	バ	伏見哲	0	0	0
バ	緩坂欣一	1	1	1	バ	小林茂雄	1	1	1	バ	乾守夫	0	0	0	バ	中川一平	0	0	0
バ	緩坂恭民	1	1	0	バ	阿部正六	0	0	1	バ	乾勝美	0	0	0	コ	福島広光	2	1	0
バ	吉川晴久	0	1	0	バ	佐藤三男	0	0	0	バ	伊東武	0	0	0	武佐地区				
バ	滝場光明	0	1	0	バ	長淵貞義	0	0	1	バ	大山富雄	1	1	1	コ	丹羽孝	1	0	1
バ	久保慶一郎	0	1	0	開陽地区				バ	山下孝二	0	0	0	コ	丹羽正明	1	1	1	
バ	正我良夫	1	0	0	コ	土井上昭男	0	1	0	バ	北川栄治	0	0	0	コ	亀井泉	1	1	1
バ	久城純一	0	0	0	コ					バ	水本勘蔵	0	0	0					
バ	荒昭一	0	1	0	コ	向館金吾	1	0	1	バ	水本一三	0	0	0	コ	中司哲弥	0	0	0
バ	桜井誠造	0	0	0	コ	山田輝男	1	1	1	バ	山本正八	0	0	0	コ	上原徳政	1	0	1
コ	佐々木繁雄	3	2	2	コ	船越政雄	0	0	0	バ	榎田英雄	0	0	1	コ	工藤政清	1	1	1
バ	佐藤晴信	0	0	0	コ	浅野トミ子	1	1	1	コ	穴吹貞明	2	1	2	コ	舟橋清高	1	1	1
コ	奥村武雄	2	2	1	バ	吾妻寅男	0	1	0	バ	佐藤正男	0	0	0	コ	酒井清志	1	1	1
コ	阿部忠次郎	2	0	0	コ					バ	佐々木文作	1	0	0	コ	目黒雅	1	0	1
コ	三森章司	1	0	2	コ	鈴木嵩	1	1	1	コ				コ	千葉弘	2	2	2	
コ	川手輝雄	1	1	1	コ	桜井精治	0	0	0	バ	野口忍	0	0	0	コ	工藤剛	1	1	1
コ	下山恵市	1	1	2	コ	横田孝博	0	0	1	コ	佐藤千秋				コ	児島喜一	0	0	0
バ	石崎多門	0	0	0	コ	高橋寅之助	1	0	0	バ	太田功	0	0	0	コ	児玉光彦	1	1	1
バ	林仁一郎	1	1	0	バ	中本栄太郎	0	0	0	コ	岡次郎	1	1	1	コ	坂口亀一	1	1	0



くいいず???

あなたもやってみよう

— ヨコのカギ —

(1) つつ下もはかないで、それじゃ冷えるでしょう

(4) 事前の反対

(5) 用心

(7) 笑う門には……きたる

(8) ……を押す

(10) 和服にゲタなら洋服には……

(11) 人気のある刑事です

(14) ……切りげんまん

(15) チェッ、……に出たか

— タテのカギ —

(1) お正月の遊びの一つ

(2) 六のつぎの数の名

(3) ハナの長い動物

(6) ……伝心

(7) 部屋に……時計がかけ

てあった

(8) (中の絵がヒントです)

(9) ツルは千年、カメは……

…年

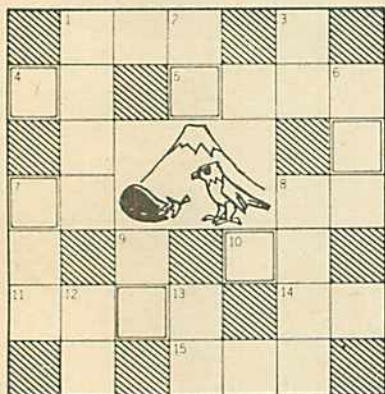
(12) そんなせまい……に自

動車を入れちゃ困るね

(13) 犬も歩けば……にあたる

◎ 応募規定

【解き方】 ふつうのクロ



表を第二十六号に記載致します。

※ 正解者十名に粗品進呈。正解者多数のときは、抽選で決めます。尚、十二月第二十四号の当選者発表を第二十六号に記載致します。

メ切日は一月二十五日

④ 宛先 中標津町東七条南二丁目 中標津農協 組織農政係

② 氏名・年令・住所 対象 小・中学生

① 官製はがきに答えを書いて送って下さい。

お知らせ

雪印中標津工場の獣医師と

共済診療業務嘱託締結について

昭和五十年一月一日の間に、家畜共済の診療業務について雪印乳業と共済組合員の家畜共済加入畜に

ぜんざい

■ 材料 四人分

あずき 一カップ

砂糖 二〇〇〜二五〇g

白玉粉 一カップ

■ 作りかた

① あずきは洗って、虫食い豆や未熟な豆を

取り除き、大きめの鍋に入れ、豆の三〜四倍の水を加えて強火にか

けます。

② ①が沸騰したらザルにかけてゆで汁を捨て、再び水をあずきの

三〜四倍入れて強火にかけ、煮立

ったら $\frac{1}{2}$ カップの水を加えて煮立

ちを止め、弱火にしてあずきがや

わらかくなるまで煮ます。この間

上に浮く泡・アクをいねいにす

くい取ります。

③ あずきを手でつまんで、つぶ

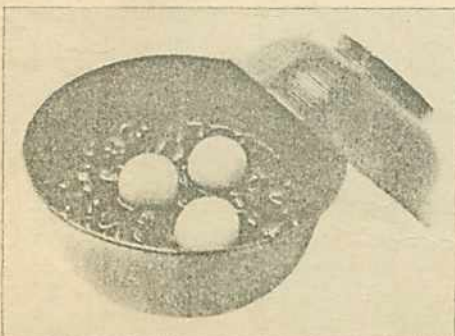
れるくらいにやわらかくなったら

分量の砂糖を好みで加減して入れ

さらに弱火でコトコト煮て、あず

きに充分味を含ませます。最後に

塩ひとつまみを入れ、甘味をきか



④ ポールに分量の白玉粉を入れ

水 $\frac{1}{2}$ カップ(白玉粉のかさの半量

を)を少しずつ加えながら練り、耳

たぶぐらいの固さにします。

⑤ 鍋にたっぷりの湯を沸騰させ

④を一口大に丸めながら入れて強

火でゆで、全体が浮き上がってか

らさらに一分ゆでで取り出します。

⑥ ③の中にゆで上がった④を入

れ、一〜二分煮て椀に盛りま

す。

■ メモ

\* あずきは、一度ゆで汁を捨てる

ことにより、アクが取り除かれ、

おいしいゆであずきになります。

\* 沸騰したところに水を加えて煮

立ちを止めることをびつくり水と

いいますが、これは湯の温度を急

激に下げることにより、あずきの

中心部まで温水を浸透しやすくし

全体を早くやわらかくする働きが

あります。

また、はじめに急に表皮だけ熱

せられて中心部との温度差が大き

くなり、表皮が切れたり、しわが

よったりするのを防ぐ役目もしま

す。

